

ミノルタ千代光会 会報 No.157



「津軽富士見湖からの岩木山」

春の東北、桜を訪ねる旅に出ました。弘前、角館、北上展勝地など桜の名所とともに「津軽富士見湖」も見どころです。木製の橋としては日本一の長さを誇る「鶴の舞橋」を進むと、岩木山、桜並木の景色が折り重なりいろいろの変化します。遠景の岩木山、中景の桜並木、近景の湖と鶴の舞橋が組み合わせられる景色はどのアングルも絵になり飽きることなく、強く記憶に残りました。「撮影：松下修三」

二〇二三年度 期初のご挨拶

会長 大場 勝

2022年度の総会・懇親会が皆様のご協力により関西、中部、関東の三地区で開催されました。対面形式としては2018年度以来であり、三地区ともコロナによる自粛期間を経た今回の総会出席人数は減少しましたが、顔を合わせたの久しぶりの会話は盛り上がり、顔を合わせたため対面での良さを実感しました。三地区でのその詳しい様子を本号で紹介しております。その内容と一部重複しますが私が総会で話したことを加えて新年度スタートに際しての一文とさせていただきます。

総会での2022年度の活動報告については昨秋の行事や今回の総会・懇親会をはじめ、コロナの影響で行事を中止することなく予定通り実施することが出来、また2023年度の計画もコロナは終息したとは言えず予断は出来ませんが往年通りの活動を計画することとなり喜ばしく思っています。

当日総会・懇親会プログラムの一つである会社状況説明に於いて、大幸社長はじめ会社幹部より対面で直接お話を聞ける機会をいただいたことにあらためて感謝いたします。

2023年度はコニカミノルタ社創業150周年の年にあたることで記念に作成された事業活動の紹介年表が出席者へ配布されました。

さて上記したように今回の出席者数は4年前よりも40%の減少となりました。コロナへの慎重な対応やこの間に会員総数が10%減少している背景もあっての結果と思われませんが、この4年間で会員の高齢化が進んだことが大きな要因かと思っています。

高齢化について私より次のことも紹介しました。

今から20年前の2003年にミノルタ、コニカが経営統合しました。当時の会員数は660名で、統合後も会員数は増えていき、10年

後の2013年には過去最多の900名近くまで増え（会員平均年齢72才）、その後は入会者数が退会者より少なくなり会員数は減少し始め、20年目の本年度は756名（会員平均年齢78才）でのスタートとなります。今後もこの傾向が続くと7年後の2030年には会員数が500名、その時の会員の平均年齢が82才となり、76才以上の会員が全体の80%以上という超高齢化組織となる試算結果となります。

また会員の平均年齢が年々高くなっていくことは、会運営に欠かせない役員・事務局員の確保（なり手不足）をも困難にしており、会の運営が継続して出来るためには是非会員の積極的なご協力・支援を期待しております。

会報新年号でも記しましたが、新年度においては高齢化していく会員と組織を見据えて今後の活動と運営について方向性を確認し、課題への対応を検討して行きますので引き続き皆様のご理解をいただきたくよろしくお願いいたします。

なお、各地区総会時のアンケートでは多くのアイディアと意見をいただき有り難うございました。今後の検討の中で参考にさせていただきます。



目次：No. 157

2023年度会長挨拶	1
2022年度各地区総会報告	2-3
理事会だより	4
会計報告	4
事務局からのお知らせ	4-5
追悼の辞	5

2022年度 各地区の総会報告

《関西地区》

3月10日(金)

本年度の総会はコロナ禍で2019年以来4年振りの総会となりました。

以前と同じく新阪急ホテル「花の間」にて、午時11時より開催されました。

先立つ受付は午前10時からでしたが久しぶりの再会であり、参加者は早くから受付に来られました。ただし参加人数は52名と今までに比べ、高齢化・コロナ禍のためか半減しました。

来賓3名の参加を得て、足立理事の司会で開会しました。



まずは、この4年間の物故者100名の方々に對し、ご冥福を祈り、黙とうを捧げ、続いて大場会長のご挨拶及び活動報告がありました。

4年振りの対面での総会であり、その間の活動、毎年の高野山での慰霊祭、一部日帰り行事、又ズーム会議活用での毎月の理事会開催などの報告がありました。

KM統合から今年で20年目を迎え、当時から会員数も三地区合わせて130名減じ、平均年齢も78歳と高齢化が進みグラフ画面でここ数十年の「会員数減少」「構成年齢推移」「三地区総会参加者数減」など、今後の千代光会の有り様に対する課題などの説明がありました。



その後、大場会長と塩見理事より総会への付議事項として、第1号議案 理事ならびに監事の選出の件、第2号議案 2023年度関西地区事業計画の件、参考として2019年〜2022年の事業報告と内容の説明があり、会員皆さんの拍手により承認されました。

引き続き、大場会長より檀上にて理事(重任)と新理事、鈴木透氏・川村淳之氏の紹介があり、退任理事、福井副会長・陣川理事の紹介がありました。併せて、事務局の川口理事、塩見理事、田中あつ子氏の紹介と、出席参加新入の塩見憲氏の紹介がありました。

又、フォトギャラリーへの14名の参加と24点の紹介がありました。

総会の部は終了し、一旦休憩の後懇親会に入りました。

最初に来賓の紹介があり、



今年のコニカミノルタ株式

会社代表執行役社長兼CEO 大幸利充様、秘書室長遠山光佑様、労働組合中央執行委員長結城健太様のご出席をいただきました。

大幸社長よりご挨拶と、会社の沿革(帰りに皆さんへ配布)と現在の売り上げ状況・コロナの影響・ロシアのウクライナ侵攻の影響・中国のゼロコロナ政策の影響な



ど現在の会社を取り巻く状況の丁寧な説明がありました。

休憩後、西村孝夫さんの乾杯の音頭で宴会が始まりました。

今回の宴会(懇親会)ではコロナ禍でのホテルの対応として、各テーブルではアクリル板を設置、料理はホテルスタッフが配膳、又飲み物もホテルスタッフがオーダーするという従来とは異なるスタイルでした。それでも皆さん十分に飲食と歓談をされて、久しぶりの出会いに各テーブルとも和気あいあいの雰囲気でした。

恒例のカラオケは今回はできず、歌自慢の方には残念な宴会ではありましたが、その後楽しみみの抽選会があり、10名の方に商品券が当たる等悲喜こもももでした。(私のテーブルの同期2名が当たる等ラッキーな世代でした)

続いて恒例の「千代の光」の斉唱に入り、今年には森久さんのリードにより会員全員が社歌をマスク越しに高らかに熱唱することができました。

最後のメは退任される福井副会長の「一本締め」で、久しぶりの総会を無事楽しく終えることができました。又の再会を楽しみに閉会となりました。三々五々、二次会へと向かわれる方も多く見かけました。

どうか皆さんお元気で。

(記 理事 今井裕司)



《中部地区》

3月11日(土)

総会は3月11日(土)に、これまでの会場から変更し、JR豊川駅東側にある「サーラプラザ豊川」にて会員42名、来賓3名の45名の参加を得て行われました。

川尻理事の司会のもと、本年度の物故者への黙禱、そして、中村代表理事・大場会長の挨拶と続き、その後、議事に入り活動報告・会計報告の説明、続いて、新年度の活動計画案・予算案の提案が事務局よりあり、拍手により議案は承認されました。

今総会は役員改選期に当たり、役員改選案が事務局より提案され本案も拍手により承認されました。

新任理事として、木原昭信さん・松下浩治さんの2名、そして、中村代表理事は退任され、内藤・川尻・今村の3理事は再任となり、2023年度より5人体制で地区運営に携わることになりました。代表理事には今村理事が、事務局には川尻理事が担当することになりました。

総会后、会社来賓の杉江上席執行役員(品質本部長兼情報機器カスマーサポート担当)が紹介され、ご挨拶のあと、会社現況



等をビジュアルで分りやすい説明があり、会社状況の理解をより深めることが出来ました。会社状況説明後、全員で集合記念写真を撮り、会場をレストランに移し懇親会に移りました。懇親会には中村代表理事の司会により、山西恒夫さんの乾杯の音頭で会食スタートいたしました。4年ぶりの対面再会であちこちの様子を確認したり、久しぶりの旧交を

温めあい談笑が絶えず、あつという間に歓談の2時間が過ぎ、最後に先崎辰明さんによる恒例の方歳三唱で閉会とし、帰りには全員に集合記念写真を配り、それぞれ帰宅の途に就きました。



本年度は4年ぶりの開催で、参加者人数がこれまでより10名以上少ない集まりでしたが、皆さん元気な様子を確かめ合うことができ、対面交流の重要性を再認識しました。来年度は少しでも参加者が増えるように工夫もし、旧交を温め交流を深めあう機会となるようにと考えております。

(記 事務局 今村俊二)

《関東地区》

3月14日(金)

コロナ禍により2019年度総会が急きよ中止となつて4年、久方ぶりに2022年度総会を対面で開催しました。2018年度開催会場のコニカミノルタジャパン(株)浜松町ビルセミナールームの際の懇親会場「芝宇良」さんがビル建替計画により撤退されたため、総会会場を品川プリンスホテル内の「品川大飯店(中華料理)」に移しての開催となり、会員13名(会員総数62名)および来賓3名の合計16名のご参加を頂きました。コロナ前の2018年度の31名からは半分以下に大きく減少した総会でした。



欠席のご返事の中には「腰痛で：」「ひざ痛で：」「施設入所のため：」等々の事情を書かれた方も多く、コロナによる3年間で、会員の多くを占める高齢会員の周辺環境を大きく変えたことを強く感じる状況でした。参加13名のほかに2名の参加予定者の方がおられたのですが、これらお二方も直前に「参加するつもりで楽しみにしていたが足の状態(体調)が」とキャンセルとなったのが残念でした。

こうした状況の中、総会では中華料理店の丸テーブルに着席して、富澤理事の司会進行で開始となり、「物



故者への黙とう」「大場会長の挨拶」を経て、報告事項「2022年度事業報告」「会員数、慶事対象者の報告」、続いて審議事項「2023年度事業計画」および「理事改選」のご審議を頂き、理事改選については立候補者がなく、現理事が留任(代表理事は西理事に交代)ということで、報告2題、審議2案が承認されました。

続いてコニカミノルタ(株)武井上席執行役員および大西人事部長から会社状況のご説明を頂き総会を終了し、続いて、記念写真を撮影しました。

総会時のままの丸テーブルの席で、各人の前にそれぞれ料理が運ばれ、若菜勇次さんの乾杯のご発声で懇親会がスタートしました。参加者が少ないこともあって皆ゆっくりと美味しい中華料理を楽しみ、同時に懐かしい顔を見ながらのおしゃべりを楽しんでいました。途中には事務局から、今回の欠席連絡に近況を付記していただいた方々の近況をご案内して、懐かしい顔を思い出しただきながら、副田耕一さんの中締めにて散会となりました。

(記 理事 廣澤政明)



新入会員のお知らせ*(所属地区)
 S. M (関西)
 渡邊 重實 (関西)

【会員状況】
 4月18日現在
 関西地区〔490名〕
 中部地区〔204名〕 合計〔756名〕
 関東地区〔62名〕

理事会だより

2月理事会
 ◇2023年度予算案について
 ◇関西地区議題
 ・2022年度総会（経費／進行）
 ・2023年度予算案について

3月理事会
 ◇2022年度の各地区総会報告
 ◇本部2022年度決算見込みと2023年度予算案
 ◇関西地区議案
 ・年度活動の総括
 ・2022年度決算見込みと2023年度予算案
 ・総会統括

4月拡大理事会
 ◇2022年度会務報告
 ◇2022年度活動報告(本部, 三地区)
 ◇2022年度会計報告(本部, 三地区)
審議事項
 ◇役員人事
 ◇2023年度予算案審議
 (本部, 三地区)
 ◇中計検討の今後について

おめでとうございます

☐=中部地区会員
 園=関東地区会員
 無印=関西地区会員

<古稀>

2月 松下 義弘 ☐ 内藤 安洋☐
 3月 池内 一己 ☐ 山本 文子 ☐ 唐崎 敬至
 旬坂 久志園
 4月 三好 正直 ☐ 永井 緑 ☐ 鳥取 敬史☐

<喜寿>

2月 下平 道子園 ☐ 陣川 民生 ☐ 足立 秀一 ☐
 岡田健一郎☐ 足立 和男☐ 清水 英司☐
 大方 惇弘 ☐ 古匠 明和 ☐
 3月 鈴木 孝男☐ 白井 健三 ☐ 石原 貞男☐
 松田 元伸 ☐
 4月 三迫 芳彦園 ☐ 岩橋 秀起 ☐

<傘寿>

2月 森岡 幸弘 ☐ 瀧口 伸二☐
 3月 近藤 弘 ☐ 松原 勝 ☐ 佐本 政義 ☐
 吉田 昌純 ☐
 4月 板垣 勝美☐ 大場 長一郎☐

<米寿>

3月 三輪 繁雄 ☐ 宇治田 博 ☐
 4月 早川 芳孝 ☐ 兵藤 義治☐

<卒寿>

3月 小林 幸雄 ☐ 塚本 晴夫 ☐
 4月 酒井 恒明 ☐ 佐藤 英樹☐ 中根 正文☐
 5月 細谷 卯一 ☐

対象者：2月1日から5月9日生まれの方

2022年度会計報告 2023年度予算

(単位：円)

		2023年度予算	2022年度実績	2022年度予算
収入	会社助成金	3,480,000	1,950,000	2,000,000
	入会金他	100,100	200,181	100,050
	収入合計	3,580,100	2,150,181	2,100,050
支出	地区活動支援費	1,350,000	0	0
	慶弔費	460,000	364,446	423,000
	高野山慰霊祭費	700,000	603,122	700,000
	事務運営費他	1,070,000	1,050,745	1,076,000
	支出合計	3,580,000	2,018,313	2,199,000
繰越金		8,696,260	8,696,160	8,465,342



《同封しています》
 2023年度重要事項
 お知らせの連絡先

お悔やみ申し上げます

清水 馨	2022年10月9日
幾田 正司	2023年2月22日
藤原 泰	2023年3月 1日
清水 英司	2023年3月19日

追悼の辞

高濱 哲夫さん

1月9日死去

高濱さんは昭和31年に入社され、カメラ営業部で長くお仕事をされました。

商品管理部でカメラの生産販売調整に携わっておられ、生産されたカメラ製品をどこにどれだけ配分するか、生産側からも販売側からもプレッシャーを浴びる部署でした。

あのビッグカメラ「α7000」が販売された時は特に厳しい状況で、海外と国内の配分には心労が強かったと思われるが、おくびにも出さずいつもと変わらず温和に仕切っておられたことが強く印象に残っていると、当時の部下の方が話してくださいました。

平成7年に退社され、平成13年から評議員としてミノルタ千代光会の運営に関わっていただき、その後理事並びに事務局として平成27年まで諸々の差配、調整、行事の準備催行、会計などの主業務を担っていただきました。

私はその事務局で初めて一緒に仕事をしました。主に資料と会報の編集作成を担当してきましたが、作業に専念できるようにさり気なく気を配ってくださいました。身に沁みてありがたく頼りにしていました。週に1日塚の事務所から梅田の方に帰る道すがら、色々なお話をしたことが懐かしく思い出されます。

仕事のお仲間の方々とは月に一度の飲み会、温泉旅行などを楽しんでおられたようです。事務局退任にあたっては、引き継ぎの業務指導を細々と教えていただいたと後任の方が感謝しておられます。何事に対しても誠心誠意向き合い細やかな気遣いをされる温かいお人柄だったことが偲ばれます。昨年夏に長時間の大きな手術をされ『今はリハビリに励んでいます

よ』と、柔らかな語り口で経過を聞かせてくださった電話の声は明るくお元気でした。今年の春にはお会いできるものと楽しみにしていましたのに、思いもかけぬ訃報を受けて呆然としました。コロナ禍で3年もの間外出もままならず、直接お目にかかれぬままです。立ててしまわれ残念な思いです。あの明るい笑顔と穏やかなたたずまいを心にとどめ、ご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

(三原淑子)

藤原 泰さん

3月1日死去

藤原さんは昭和三十二年四月に入社されました。昭和四十一年に当時秘書室担当だった藤原さんがリーダーに抜擢され、事務改善を目的にパンチカードシステムを導入しました。その三年後、私が入社した昭和四十四年には事務用コンピュータに更新されました。藤原さんは高度成長期の大型コンピュータ導入初期まで、事務効率の向上や省力化を先頭に立って引っ張っていかれました。

効果抜群ということで担当部署が指名ストライキの対象になったとき、管理職の藤原さんと私たちがのてんやわんやの共同対応は、今では楽しい思い出となっています。藤原さんにとりましてコン

ピューター担当のこの時期が、ミノルタで一番充実した時期だったと語っておられました。

その後は西神情報センターの管理部門などを担当されて平成七年八月に退職されました。同センターで在職中に発生した阪神・淡路大震災のときは、自ら被災者でありながらもミノルタ救援対策担当者として、社員被災者の再建支援に当たられました。

ご退職後は、テニスや歌唱クラブなどを楽しまれ、熱心なクリスチャンの藤原さんはその優しいお人柄で、教会でも皆さんから大層慕われておられたようです。

藤原さんと共に仕事をしていたメンバーは定期的に集まり、藤原さんと懇親会を続けていました。参加者の中では藤原さんが一番元気な様子で、いつも場を盛り上げてくださっていました。コロナ禍の影響もあって中断が続き、昨年二月のオンライン呑み会が最後となってしまいました。その時も大変お元気な様子だったので、このたびの急なご逝去は信じられません。

安らかな眠りにつかれますよう、心からお祈りいたします。

(山口 順平)

